

残したいものは残す・いらぬものは作らぬ

権上かおる（環境カウンセラー）

自己紹介

私の話はひとつのお話ではなく、四方へ飛びます。ご容赦ください。

本業は、材料分析と材料関係の専門書の出版をする中小企業の範囲に入ります民間会社に勤務しています。小さい会社ですが、いろいろな経験ができたと思っています。4回の夏、エジプトのシナイ半島の発掘現場の仕事にも出してもらいました。専門書出版では、農業土壌関係の専門書を編集し、3.11原発事故対応には、この仕事が大変勉強になりました。

個人では環境、特に大気環境を中心として市民活動に長年係わっています。東京や全国の大気汚染や酸性雨の調査、ぜん息患者さん達の東京大気汚染公害裁判の支援の活動、環境カウンセラー（市民部門）資格を取得してからは、小中学校などへの出前授業や環境イベントへの協力など、仕事？の絶えぬ状況です。本稿は後者が中心のお話になる予定です。

市民研事始め

市民研との最初の出合いは、2004年7月28日、日本機械学会・技術と社会部門第63回イブニングセミナーでした。「電磁波リスク研究の最新動向と規制政策のあり方」と題して、上田さんに講演していただきました。東京タワー周辺の測定など、具体的なお話に感銘を受け、懇親会の場で、入会したことを記憶しています。しかしながら、市民研の活動にはほとんど参加できず、会報などいただくばかりの会員状態が続いています。若干の貢献ができたのは、現事務所の仲介とシェアの方々のご紹介位といえるかもしれません。

環境調査の活動

6月の環境週間と大気汚染のひどくなる12月に毎年行っている全都の大気汚染物質（二酸化窒素）を調べるカプセル調査がまもなく30年になろうとしています。当初から参加しています。毎回約1万カ所に親指大のカプセルを取り付け、その地の汚染度を知るという取り組みです。当初からみれば23区はきれいになってきていますが、多摩の状況が悪化していることがよくわかります。

1991年からは、酸性雨調査研究会（以下雨研）という環境調査のNGOの活動にも参加しました。身近な雨を通じて、地球環境を考える「足元で行動、地球規模で考える／自らの手足を動かし、（苦勞して）調査し、得た結果（客観的事実）をもとに環境負荷の少ない選択を行う／専門家だけに通じる表現はしない」というのが、モットーです。

やはり6月の環境週間に全国の雨の調査を行っています。これには、気象台の労働組合の参加もあるので、国の調査にもない北海道や沖縄の離島の雨まで寄せられ、調査結果となります。(図1)

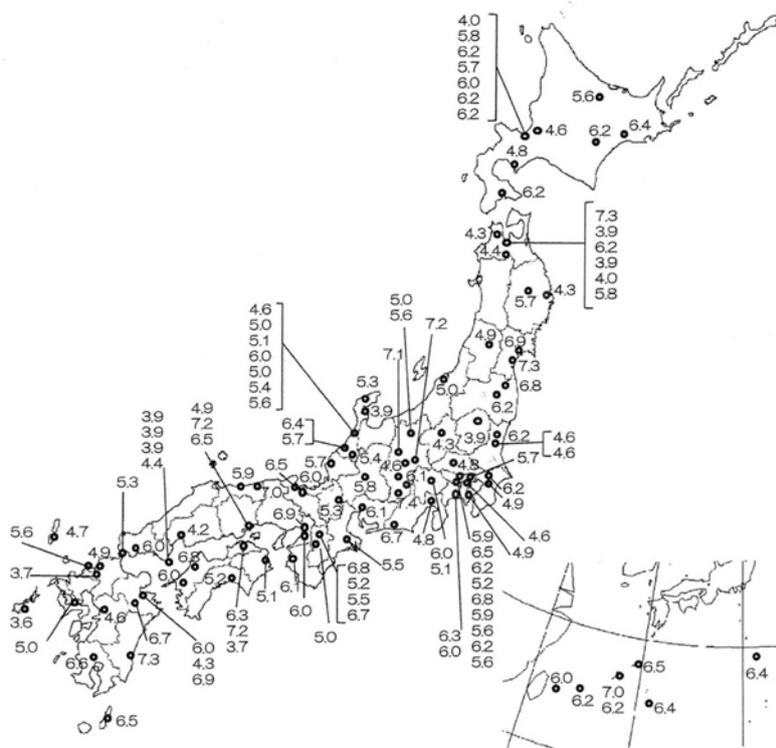


図1 全国雨の調査(2012年6月)

日本では、国や行政の雨の調査は、何mmの雨が降ったかという雨量については気象庁（現在は国土交通省）が行っておりますが、雨の質には一切触れられません。酸性雨か否かなど雨の成分調査は環境省の管轄となります。しかし、陸地を離れて海で降る雨については海上保安庁になると、全国調査が始まるころには聞きました。したがって、6月の環境週間の全国雨調査は、気象台に働く方が、雨の質に触れられる唯一の機会となっています。

雨の調査以外にも様々な活動を行ってきました。自らの調査で環境負荷の少ない生活の選択をするための活動です。いくつかのご紹介をさせていただきます。

北区堀船新聞印刷工場問題

北区の地図をご覧いただければわかりますが、隅田川が大きく褶曲しているところが、堀船です。この町には橋がないため、通過交通がなく、東京都内とは思えない静かな町です。川にカミソリ堤防1枚で隔てられた土地に新聞印刷工場計画が1990年代終わりころに持ち上がりました。しかも350万部以上を刷る東洋最大級の印刷工場です。新聞の配送のピークは夜中の1時前後なのです。住民の方々の相談を受け、2つの大きな実験を行いました。

a) 深夜の騒音実測

事業者のアセスメントは、これ以上ずさんなものはないといえるほどでしたが（後述する公害調停の中でやり直しが命じられたという、極めてまれな事例です）、そのアセスに示された交通量で深夜の騒音がどの程度上乗せされるのかを知ろうとなりました。10分間に2台のトラックに換算され、住民の方に走らせてもらい、町のあちこちで寒い冬の真夜中に騒音を測りました。当時、幹線道路の騒音の環境基準を緩和するための改正が行われたこともあり、住宅専用地域の当地では、簡単に環境基準を超えてしまうことがわかりました。施工の大手ゼネコン関連コンサルタント会社社員が、泥酔のうえ大声を上げ、騒音測定を妨害したことも、住民側が真摯に客観的事実を把握する取り組みへの暴挙といえるでしょう。

b) 隅田川舟運実験

新聞ロール紙は、カナダや北海道から船で晴海ふ頭などへ届きます。夜中の配送は少々我慢しても、せめてロール紙だけは、隅田川を使った内陸舟運を使ってほしいと願いました。では、配送に船と車でどのくらい時間が異なるかの実験をしようとなりました。現代版うさぎと亀の競争です。荷積みの時間を除き、品川ふ頭から堀船まで、「よーい、ドン」でスタート、ゴールの時間を調べました。すると現代版でも亀のほうが早かったのです。車1時間20分、船1時間5分でした。（図2）



図2 隅田川舟運実験コース

温暖化・環境影響なども算出しましたが、重量物を運ぶのには浮力を利用する船は圧倒的に有利です。CO₂排出量、騒音影響なども船は車に対して1/10以下でした。これをもとに環境影響評価（アセスメント）の住民側からの代替案を提案いたしました。（図3）

事業者の計画案	代替案
毎日10～11 t車57台大型トラックで品川埠頭等から北区堀船まで陸送する。	毎日 180 t積載できる船舶3隻で、隅田川舟運を利用して水上輸送する。
	
配送道路は、生活道路	狭い道路2トントラックが道いっぱいに行

図3 新聞ロール紙による住民側からの代替案

2002年には、3600名以上の住民らは、東京都の公害調停に申請しました。これは、所沢のダイオキシン問題に次ぐ規模のものでした。しかし、事業者が大手新聞社であったため、一切報道されませんでした（他紙でも配送などの遠慮で報道できない）。現在は操業されています。

新聞ロール紙の舟運は、公害調停で「事業者の検討事項とする」となり、現時点でも実現はされていませんが、工事中の舟運は大活用され、周辺への環境負荷を低減しました。（写真1）



写真1 新聞印刷工場工事中の河川舟運の活用

新聞配送の騒音問題については、工場前区道の低振動・低騒音舗装が事業者負担でなされたこと、そして、工期が約2年伸びたことで、この間に栃木や神奈川に印刷工場が建設され、夜中の配送台数も当初予想よりかなり少なくなり、環境影響が軽減されています。背景には、社会の新聞離れの影響もあるのではと想像しています。

余談ですが、この件で忘れられないことがあります。後日、仲間がこの2点について2つの環境関係の学会発表したところ、各々以下の質問がでました。騒音については、「事業者側の泥酔・大声妨害は、ノイズとして消せばよい」と、舟運実験については、「船のチャーター費用はどこから出したのか？」とありました。費用は住民らのカンパで16万円を捻出したのですが、専門職の方の2つの質問が、倫理感もなく、環境影響評価の本質から大きく外れることに、啞然としました。

表参道 Xmas イルミネーション調査

このイベントの第一世代は、1991年～1998年までの8年間キャスターイルミネーションギャラリーとして行われました。東京渋谷・港区の表参道のケヤキ並木に（第一世代最後の）Xmas イルミネーションが1998年12月1日に点灯しました。当時は、LEDはなく電球。百数十本のケヤキの木に39万個の電球が取り付けられました。

地元に住む女性から「生きている木に電線巻かれてかわいそう」と訴えられました。（写真2）



写真2 表参道イルミネーションケヤキに巻かれた電線(1987, 98年12月)

確かに、古いものは大正時代からのケヤキで、地下鉄や周辺ビルの影響で、樹勢が弱まっているのは明らかです。しかも、イルミネーションの最初の頃は、3cm位のステップラーを直接木に打ち付けて電線を固定していました。これを剥がした跡が樹皮に何年でも残っていました。イベントの主催者こそ「原宿シャンゼリゼ会」という商店街でしたが、スポンサーは日本たばこ（以下JT）でした。集蛾灯のよう

に光で若者を集め、その下でタバコの宣伝をするものでした。

地元商店街のイベントを少しでも環境負荷の少ない取り組みにしてほしい。それには、まず実態調査をとりました。放射温度計で、樹の表面温度を測ると、電線が密に巻かれているところは、約1℃高くなっており、その他、大気汚染や騒音、ゴミ放置もイベントの影響が明瞭でした。期間中の電球個数や点灯時間等から二酸化炭素（CO₂）排出量を計算すると、CO₂が、2.2トンにも上りました。これらは新聞報道されました。

すると、翌年にはJTがスポンサーを降り、商店街は「表参道櫛会」と名を変え、雨研には取材が殺到しました。メディアの方から、「Xmas イルミネーションが普及したのは、表参道の効果。同時に、今回やめたことの影響も大きく、各地のイルミネーションが、木に直接電線を巻かないなど環境配慮を行うようになった」と伺いました。

その後、提灯や光ファイバーなどのイルミネーションが行われては、消えていきましたが、2014年には、渋谷区側（ケヤキ並木の北西側約4分の3）でのみ、LEDランプで大規模なイルミネーションが復活しました。ある方が、「自分のペットの犬に電線まかれたら、皆いやがるだろうに」と表現されましたが、ケヤキだって生きていることをこれからも忘れないで欲しいと思います。

谷根千工房との共同作業

現在の市民研の事務所は、その前は地域雑誌「谷根千」を発行する谷根千工房が使っていました。雨研の事務所もここに寄寓していた時代があったため、多くの活動をともにしてきました。以下、森まゆみさん（作家・谷根千工房）の言葉です。

「その昔、不忍池の地下駐車場に反対していたころ、私はたった30歳だった。東京駅丸の内駅舎は市民運動がなかったなら、いま頃、京都駅や名古屋駅のように高層巨大ビルになっていただろう。（中略）おなじころ、（不忍池の）地下駐車場に反対しなかったら、あの地下には乗用車2000台、大型バス60台の駐車場ができていた。自然の池は地下にガスタンクを抱えることになった・・・」

（谷根千ねっと <http://www.yanesen.net/> 2015.4）

まさに不忍池駐車場問題から、ご一緒でした。粘り強い運動の結果、台東区立の駐車場は池の下から押し出し、中央通りの下に建設されました。完成した時には、バブルもはじけ利用率が低いことが、報道されています（2009.10.5 東京新聞“ガラ空き駐車場 利便性を向上させよ”）。

この他にも、東京駅丸の内駅舎保存（写真3）、安田楠雄邸の保存活用などの成功事例、これらを上回る失敗事例（残せなかったこと）も、ともにして今日に至っています。



写真3 東京駅保存のために1988年に発行したパンフ
（谷根千工房、復刻版もあります）

2014年は、新国立競技場問題で激しく動きました。写真は、「国立さんを囲む会」の呼びかけで、人間の鎖で周りをつないだイベント時です。写真右端が森さんです。(写真4)

上田さんにこの報告をと求められましたので、日本環境学会への投稿を末尾に転載します。



写真4 「国立さんを囲む会」人間の鎖 写真:しんぶん赤旗提供

最初に新国立競技場計画に異義を公にした榎文彦先生(建築家)は、せめて無蓋をと求めています。屋根をなくすことで、膨大な経費節減と環境負荷を低減できるためです。取り壊しが終了した段階の2015年5月20日、競技場の蓋は五輪から先に延ばすと突然報道されました。舛添都知事からも初めて、この件へのきびしい意見が表明されました。混沌の中、着地点は見えていません。

2015年4月24日には、日本学術会議「都市と自然と環境分科会」から、日本スポーツ振興センター(JSC)へ、人工地盤を縮小して「新国立競技場」に緑を増やして欲しいという提言書も出されています。先日、明治神宮内苑の100年かかってつくった人工の森の生物多様性を伝えるテレビ番組もありました。なんとか屋根と巨大な梁と人工地盤を縮小してほしいと考えます。

「残したいものは残す・いらないものは作らない」は、同じく谷根千工房の山崎範子さんの言葉ですが、これまでの行動を集約した言葉と感じ、拙文へのタイトルとしてお借りしました。これまでの取り組みは、「次世代へよりよい環境を渡し、負の遺産は残したくない。環境破壊を伴う人工物は造りたくない」は、一貫したものと言えらると思います。

これらの活動は、どの場面をとっても大変でしたが、得たものも多く、これからもこうした取り組みは、なくなることはないでしょう。

次世代への負の遺産—新国立競技場（日本環境学会人間と環境 第41巻1号（2015.2）再録）

1. はじめに

2014年12月2日、3回目となる国立競技場の解体工事入札は、最低基準価格を下回り、不調となった。第2回入札は官製談合の疑いで、相次ぐ不手際にもかかわらず、発注者である日本スポーツ振興センター（以下JSCと略記）は、「（2015年9月30日までの）工期は変更せず、すみやかな工事を」と公表した。しかも応札者名や数、最低入札価格調査対象の業者など「非公開」とする不透明さである¹⁾。

森まゆみ（作家）ら、11人の女性による共同代表で「神宮の森と国立競技場を未来に手渡す会」²⁾を立ち上げ、署名、講演会、各関係機関への要請行動など精力的な活動がなされた。これにより、本計画が都民らの注目を集めないように運ばれようとしていた中、ようやく問題視されることになる。

筆者は、同会と行動の一部を共にしたことで、その実態を知ることとなった。本稿の前提条件として、以下をご了承いただきたい。

〔オリンピック誘致の是非については、触れない／ザハ案のデザインは、主題としない〕

槇文彦（建築家）らによるザハ案への批判で反論は始まったが、本稿では、環境影響を主とした（建築物の問題点は、森山高至ブログに詳しい³⁾）。

2. 基本データ

表1は、新国立競技場の仕様など公表されている資料をもとに作成した。「8万人を集める陸上競技は、世界的に見ても年に一度あるかないか」は、元陸上選手の為末大の言葉である。アイドルグループのために、国費を使って作るのであろうか。しかもコンサートなどへの貸出は、1回につき納税者（都民）1人当たり3.4億円の負担になるという試算もある⁴⁾。

デザイン	2012年のコンクールで建築家の安藤忠雄ら10人の審査員が、イギリスの建築家のザハ・ハジド（未完の女王）案に決定
事業主	独法JSC（日本スポーツ振興センター）
大きさ	延床面積は約22万㎡（現国立競技場の約4倍）
収容人数	8万人
高さ	70m（現競技場の2倍以上）
建設費	1,699億円まで増（2013年12月現在）
維持費	毎年41億円以上（現競技場は毎年約5億円）
活用予測	年48日の利用（JSC）見込。1年の300日以上は空
満席予測	8万人を満席イベントはほんの数日（嵐コンサート？）
周辺撤去予定	明治公園 日本青年館 都営霞ヶ丘アパートなど

表1 新国立競技場の仕様など

最大の反対理由は、1700億円という建設費、40億円/年の維持費である。しかも、「年間50日足らずの使用の施設に」である。福島原発事故という巨大な負の遺産だけでもたいへんな日本である。これ以上の次世代への負担は避けたい。(図1)

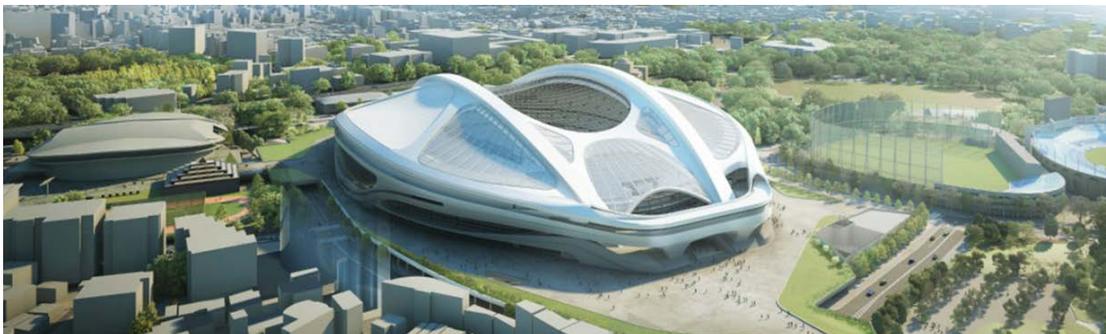


図1 新国立競技場完成予想図

3. 周辺影響への懸念

紙幅の都合で、問題点を以下に箇条書きする。

①国際オリンピック委員会 (IOC) が提示した‘オリンピックムーブメント・アジェンダ21’の順守がない。「地域にある制限条項に従わなければならない、まわりの自然や景観を損なうことなく設計されなければならない」というもの。コンペを行った時には知らなかったのでは、としか言えないほど、ザハ案は正反対のものである

②神宮の森は、風致地区

これまでの高さ制限は、15mであったところが、東京都都市計画審議会でほとんど議論された形跡のないまま、75mにあっさり緩和された(図2)。絵画館前の銀杏並木の片側に高層ビルが立ち並ぶのは、簡単であろう。開発業者にとっては‘都心の最後の聖地’と呼ばれるこの地に高層ビルを可能にすることが、真の目的なのではないか

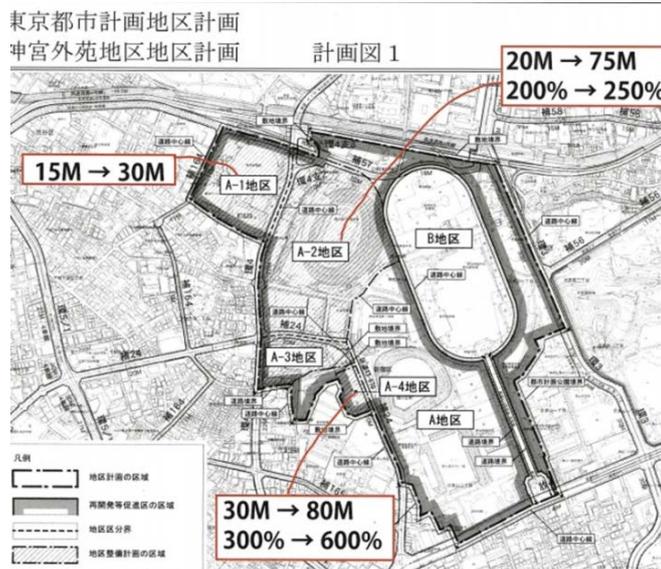


図2 東京都都市計画審議会 高さ制限緩和地域

③神宮外苑の緑地・余地を侵害

三上岳彦（帝京大学名誉教授）は、神宮の森、新宿御苑、東宮御所等の緑地は東京のヒートアイランド現象の低減に大きく寄与しているという。過密都市東京の貴重なオアシスを奪うことになる

④東京中心部の防災拠点を失う

現在明治神宮外苑地区は、新宿、渋谷、港区の広域避難場所である。夜間人口避難計画人口9万2千人となっており、昼間人口は、はるかに多くなることは明瞭である。しかし、広域避難場所は、条例で決定されるもので、次の改正まではたとえ当地が工事中であろうとも避難場所なのだそう。2014年5月の基本設計公表（5）で、開閉式屋根材がポリ塩化ビニルと明らかになった。完成後は、もし、火災などになれば屋根が有毒ガスを発生させる材料で、この競技場に避難が可能であろうか？

⑤これだけの構造物に環境アセスメントもなし

基本設計公開前に東京都のアセス担当局へアセスの有無を問い合わせた。その答えは「ザハ案という絵が公表されたのみであるからアセスの対象ではない」さらに「（新聞報道の範囲で判断すると）高さ100mを越えない、道路1km・駐車場1000台以上の新設なし」で東京都は「アセスの要件にない」というのが見解であった（後日、簡易な手続きのアセスは行った）

⑥工事や会場へのアクセスの不安

予定地北側はJR中央線、その他は、幹線道路に面していない。巨大構造物材の搬入は可能であろうか？開閉式の屋根を支える巨屋根架構は2本の大きな鉄骨トラスで構成されている。足元で長さ10m幅平均8m。断面80㎡、2LDK住宅とほぼ同じである。槇文彦の指摘では、地上部分の総容積は、2LDK・180戸分に相当するという。参加者8万人も近隣住民にとっては脅威である。この人数に対して道路幅は決して十分ではない。

⑦桑原洋一・原科幸彦ら（千葉商科大学）の‘参加と合意形成研究会’のアンケート調査によると、近隣住民の情報認知度と遅れが指摘されている（6）

4. おわりに

IOCは2014年12月8日（現地時間）、モナコで開かれた第127回総会で、オリンピック改革案の一つ、「五輪分散開催」を全員一致で承認した。いまや財政的負担が大きく、招致に手を上げる都市は年々減っているのである。このような巨大化した施設は世界の流れに逆行するのだ。

今回の問題は、これを選ぶシステムに多くの利権が絡んでいるところにある（7）。密かに事をすすめ、公になったときには、短い時間しか残されない、と秘密保護法の先取りともいえる進展も見逃すことはできない。（文中敬称略）

- 1) サンデー毎日 2014年10月21日発売号に詳しい 国立競技場 解体工事疑惑で「談合告発者」を直撃!
- 2) 神宮の森と国立競技場を未来に手渡す会 <http://2020-tokyo.sakura.ne.jp/>
- 3) 建築エコノミスト 森山高至ブログ <http://ameblo.jp/mori-arch-econo/>
- 4) コンサート1回当たりの納税者負担簡易試算
<http://www.cuc.ac.jp/~sahara/opss/data/trial.pdf>
- 5) 国立競技場将来構想有識者会議
<http://www.jpnsport.go.jp/newstadium/tabid/411/Default.aspx>
- 6) 参加と合意形成研究会 <http://www.cuc.ac.jp/~sahara/opss/index.html>
- 7) ファクタ 2014年11月号 [新国立競技場の吸血鬼]「戦犯」は日建・竹中・電通